

内航船員の生活や待遇などを説明

全海運等が協力し館山校で父兄対象に夏季講習開催

全海運が毎年協力し、内航総連合会及び関東船員対策協議会が協賛している国立館山海上技術学校の『マリンセミナー』が今年も7月30・31の両日同校で開催された。今回は、子息が新6級海技士の資格を取得とし社船に乗船している山下透・山下汽船社長（本社・熊本市）が講師となり、約40名の同校生徒の父兄に対し、内航船員の船内生活や待遇などの父兄が関心の深い事柄を中心にわかりやすく講演した。



挨拶する小比加会長（左）と講師の山下氏



この行事は、寮生活を送っている生徒達が夏休みで自宅に戻っている間、本校の保護者を対象にしたマリンセミナーを7月末の土日曜日を利用して毎年開催されている。同校では、父兄に生徒達と同じ学校生活を体験してもらおうと企画しているもので、参加した父兄達からは「中学校卒業直後から親元を離れた子供のことがよく理解できる」と評価され、今回も参加者数は在学生数の3分の1に上った。海上技術学校及び海上技術短期大学校は、内航船の幹部候補生を育成する学校であるが、社会全般には内航海運がよく知られていないことから、その重要性を父兄に理解してもらおうとともに、安心して生徒達を内航海運業界に送り出してもらえるようにとの意図に基づくもので、全海運では毎年、小比加会長が参加している。



熱心に耳を傾ける父兄達



和やかな懇親バーベキュー

小比加会長と山下氏は、初日の講演会後に開かれた同校中庭での懇親会にも参加し、父兄達と熱心な話し合いが持たれた。